

和歌山県

# 埋蔵文化財情報

1977.8 NO.4



1. 根来寺旧境内遺跡発掘調査の概要  
P 1 ~ 2
2. R 24 バイパス関係発掘調査事務所通信  
P 3 ~ 4
3. 亀川遺跡発掘調査中間略報  
P 5 ~ 7

社団法人  
和歌山県文化財研究会

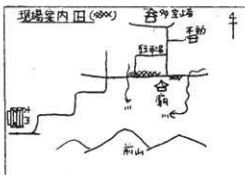
## 1 根来寺旧境内遺跡発掘調査の概要

大規模農道建設工事に伴い根来寺旧境内遺跡の発掘調査を8月1日より開始した。

根来寺旧境内遺跡の概要。現状については、詳細分布調査報告としてすでに埋蔵文化財情報No.2において述べているが、本年度調査区域もその一画を成すものであり、5/年度調査区域の西に隣接している。

現在調査を行っているI地区、II地区は現行道路の拡張部分にのみ限って行なわれているものである。この道路は古くからの道とダブっている様で、完結した一つの建物群(院・坊)の端の一部で調査を行っているのみで、その意味では十分な成果の期待できる性質のものではない。

以下にI地区、II地区の調査の概要について述べる。(上田)



### 第I地区(オ/図・2図)

現存する覚鑿廟の東側140m<sup>2</sup>がオI地区であり、延宝5年(1675)の根来境内古地図によれば成真院とよばれる建物が存在したところである。調査では、床土を剥いだ後階で焼土を多量に含む土層次の土盛りを検出した。この土盛りの中からは、昨年度の調査では出土した大甕と同種の破片及び澄明皿、瓦等が多量に検出されている。

この土盛りを排除し、約5cm掘り下げたところで、建物の柱跡や用途不明の土塔が100程検出された。柱跡では重複しているものが数多くみられ、幾度かの建替えが行なわれたであろうことが推測される。

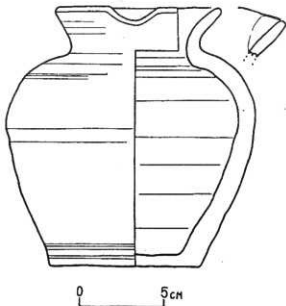
土坑には焼土を含むものが多く、中でも No. 6 とよぶ土坑は、秀吉の根来寺焼討ちの際のものと考えられる焼土が埋められており、基底部からは明の時代の作と思われる直径 25cm の青磁の皿が出土している。又、No. 74 の土坑からは昨年度の調査で出土した二石の大甕と同種の甕が上半部欠損した状態で検出されている。検出された柱穴による建物の復元等については次回に譲ることとし、以上をもって I 地区の現在までの概要とする。

(畠加見)

### オII地区

オII地区は、広さ約 1000 m<sup>2</sup> で 10月まで調査をする予定である。この地区は、以前畑になっていたことがあり、オ2層に厚さ約 20cm の耕作土がみられる。現在のところ東側より江戸期と思われる石組を検出したのみである。貴物は表土層、オ2層より甕(備前)青磁、燈明皿等を検出している。

(宇野)



オ1 図

I地区 No. 6土坑  
内出土 片口甕  
※備前焼きの油甕

2 24号バイパス発掘調査事務所

建設省より委託を受けて実施する今回の調査は、国道24号線バイパス工事に伴う事前調査である。

鳴神地区は和歌山市において最も遺跡の密集している地域で、調査地附近には



X印は現在発掘中の地点

国指定史跡鳴神貝塚を始め、大田黒田遺跡、秋月遺跡、津秦遺跡などが散在し、東部の丘陵には特別史跡岩橋千塚古墳群や花山古墳群が所在する。

道路は日前宮の北側を通り、花山西麓を北に迂迴して八軒屋に向くもので、調査範囲は日前宮より東約200mから北東方向約700mに及び、期間は昭和52年度～昭和54年度までの3ヶ年の予定。

調査対象遺跡は音浦遺跡、鳴神Ⅰ遺跡であるが、昭和44年度から46年度にかけて近畿自動車道建設のため、音浦遺跡の一部、鳴神Ⅰ、Ⅱ遺跡などが発掘調査され、音浦遺跡では古墳時代の住居跡及び掘立柱

建物、溝遺構等が発見されている。又 鳴神Ⅱ遺跡では宮井、用水路跡と想定される水路が検出され、多量の土器類、木製品が発見されている。

また、昭和45年度においてこの道路の延長である日前宮北東側で秋月遺跡の一部を発掘調査し、古墳時代、奈良時代、鎌倉時代の各遺構、遺物が発見されている現状から、今回の調査する遺跡はそれらとの関係は深いものと考えられる。又、日前宮とのかかわりも考えていかねばならない地域でもある。現在既に調査を実施しているが、(日前宮東側、鳴神Ⅴ遺跡)今のところ明確な遺構は検出されていないため、遺跡の内容については今後の報告にゆずりたい。なお、遺物は須恵器、土師器、陶磁器(青磁、緑釉)、黒色土器、瓦器等多量に出土している。(吉田)

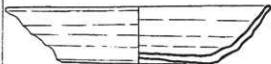
出土遺物、土師器皿(1・2・3・4)



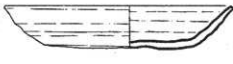
1



3



2



4



## 亀川遺跡発掘調査中間略報

### 1. 遺跡の概要(第3回)

海南市且来に所在する弥生時代を中心とした遺跡である。本遺跡は昭和45年海南市立亀川小学校々舎建築の際発見されたもので、現在までに小学校、隣接する亀川中学校々庭及び中学校運動場南側の丘陵裾部の3ヶ所から土器片が確認されている。海南市史資料編では土器の整理上夫々A・B・C地塊と区別したが、遺物は弥生時代後期を中心としたもので、全く差異が認められない。同一遺跡のかなり広範囲なものと考えられる。

今般、海南市教育委員会が亀川小学校々庭へ体育館の建設を予定した。教育委員会から発掘調査の委託を受けた海南市文化財調査研究会は早速調査団を組織し、7月21日から発掘調査を実施している次第である。

遺跡は国鉄肥後線黒江東方約2.7Km、亀ノ川南方約200mの地塊に位置している。地理的には、この付近で、急に山がせまり、小さい峡谷となつた谷あいの丘陵裾部にあつている。亀ノ川が形成する沖積平野の東端にあたり、西方には平野が急に広まっている。

周辺には、亀ノ川右岸に滝ヶ峯遺跡、多田遺跡、左岸には岡村遺跡等の弥生式土器片が広範囲に散布する遺跡が存在している。また亀ノ川平野を取りまく丘陵帯には岡村八幡神社古墳群、山崎古墳群、室山古墳群、兼勝寺古墳群、岡村古墳群、多田南山古墳群、神子谷古墳群等たくさん古墳群が存在している。さらに岡村を中心とする糸里制遺構の東への広がり本遺跡でほぼ終つている。わすかにその一部が、東の小野田地区へのびているにすぎない。

### 2. 調査

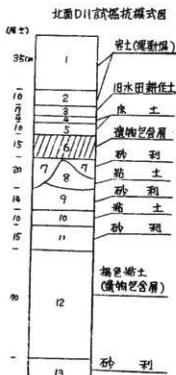
発掘調査は、体育館建設予定地へ東西22m×南北36m(792m<sup>2</sup>)と

隣接に建設予定の給食室が6m<sup>2</sup>、合計448m<sup>2</sup>の範囲に於てである。7月21日から調査を開始、8月20日現在で予定の約 $\frac{1}{2}$ を消化した程度である。以下概略を中間報告する。

発掘地は大正年間からの数回にわたる校舎建築、体育施設建設、整地等によってすでに破壊されている部分が多いが、調査はそれらの部分を除く、全面発掘を実施している。

層位としてはオ1～オ6層までは、ほぼ全域について同一レベルで確認されている。特にオ4・オ5層の床土が同一レベルであるという事は、水田耕作時の姿が想像でき、明らかに人工的な整地である事がわかる。

(北面D11 試掘坑の土層模式図)



(注) オ6層 弥生時代後期(オV様式)  
オ12層 弥生時代中期(オIII様式)

オ7層からは、北面D11試掘坑で、オ13層まで確認されているがオ12層に遺物が臭々と混入している。そして上部の7、9、11層に砂利層があって非常に複雑になっている。検出された遺物はオ6層では弥生時代後期(オV様式)であり、オ12層では中期(オIII様式)のものであった。このことは明らかに毫ノ川の氾濫による推積を物語っており、オ12層の遺物は周辺の高所な面から流されて埋もれたものと考えられる。この氾濫は北面の約半分にわたっている様である。(但し、前述した様にオ6層までは全域に於て確認されており、当然オ6層までは全域に於て確認されており、当然オ6層一弥生後期の生活面は氾濫

の推積後のものである。

遺構としては、南約40mの範囲で多数のピット群が検出されている。また中央部に東西にのびる溝(後期)があり、多数の土器片が発掘されている。更に北面に於ては径約8mの円形住居址が確認されつつある。

(後期)

### 3 遺物(オ4~6回)

全域から多数の弥生土器片が発掘されているが、特に溝遺構に数も多く器種も豊富である。

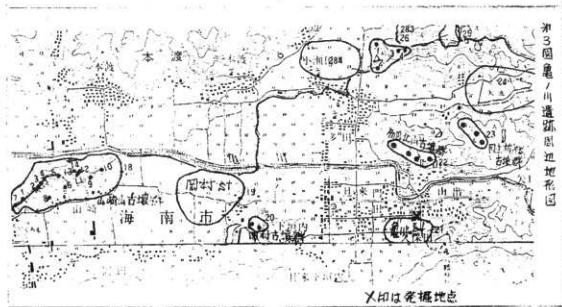
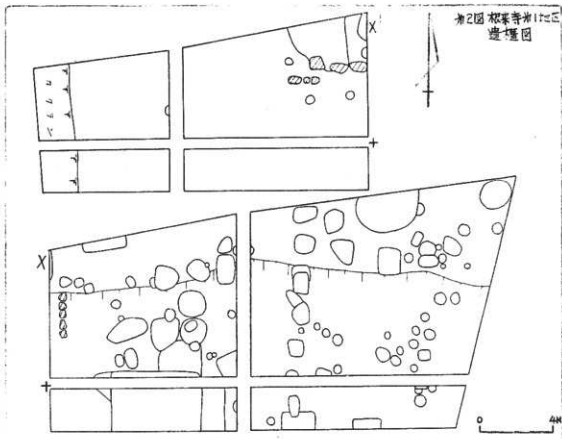
1・2・3はD//式掘坑オ12号で発掘されたものである。1は二段の断面三角形の突帯をもつもので上部に二条の波状文、さらにその下部に直線文を施している。2の高環脚部には外面にまれいにへらみがまが見られる。内部には粘土しわがある。3は底部である。以上1・2・3は中期(オⅢ式)に比定できる。周辺の岡村遺跡、海南高枝々庭遺跡、大野中遺跡から、同種のもので出土している。

4~9はオ6号から発掘されたものである。4の甕は外面タタキ、内面へらみがままで仕上げている。5の壺は口縁端がやや垂下している。頸部外面にへらみがまがみられる。6は甕の一部で口縁へ胴部と欠失している。外面にタタキが見られる。7、8は高環脚である。9は片岩製の円形紡錘車である。4~9ともに後期(オⅠ式)のものである。

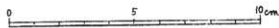
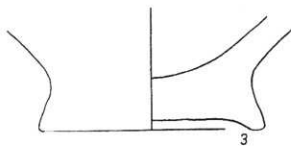
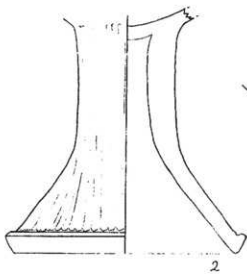
以上簡単な中間報告であるが、もう少し発掘が進めば遺跡の全貌が明らかとなるであろう。(植田法彦・中尾憲市)

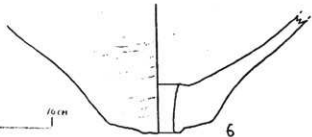
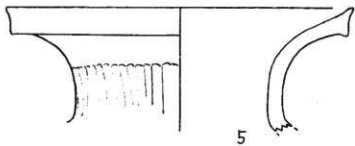
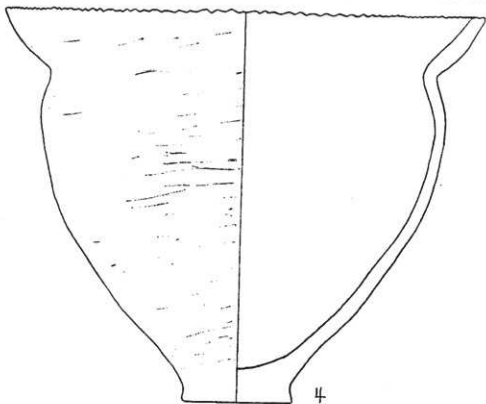
編集注 その後の調査により新たに方形の住居址が検出されています。時期などについて今後の報告を待ちたいと思います。





第4區 龜山遺址  
出土遺物





0 | 10cm

水石阿曇川遺跡出土遺物

